

## 周辺地域との共存からみた歩行者天国の存続条件に関する基礎的研究

*A Study on sustainable conditions of a vehicle-free promenade in view of coexistence with a region\**

関 啓充\*\*・浅野光行\*\*\*

By Hiromichi SEKI\*\* , Mitsuyuki ASANO\*\*\*

### 1. 背景・目的

1998年6月に、代表的な歩行者天国の1つである表参道の歩行者天国が正式に廃止、もしくは実験的廃止になった。

歩行者天国は歩行者の安全を確保することを目的として1970年8月に東京の銀座、新宿、池袋、浅草、渋谷の5地区で行われ、さらに1ヶ月後には全国20都市に広がり、1977年7月に原宿が加わった。しかし導入から約30年がたち、都内の車の保有台数だけでも当時の2倍以上になり<sup>1)</sup>、それに伴い歩行者天国を実施した周辺道路の交通渋滞や違法駐車の問題が深刻になり、周辺地域に多大な影響を与えている。このようなことから東京都の歩行者天国は上野や日本橋ですでに廃止になり、77年の全盛期に約27.6キロあったものが、現在では約半分の16キロになった。

しかし、東京都での交通事故の件数や自動車の保有台数は毎年増加し<sup>1)</sup>、交通に関する世論調査<sup>2)</sup>によると、75%の人が歩行時になんらかの危険を感じている。このような歩行環境の中、歩行者が日曜、休日くらい自動車のことを気にせず安全かつ自由に歩行できる空間、歩行者天国は必要であると考えられる。

このような背景から、歩行者天国を維持、存続していくためには、周辺地域(住民、商店、利用者、周辺道路)との調和が必要になってくる。既存研究では歩行者天国内の通行者と滞留者の共存を望める歩行者天国の条件についての研究<sup>3)</sup>があるが、本研究では歩行者天国が周辺地域に与える影響を、新宿・銀座・表参道の3地域、住民・商店・利用者からのアンケート調査を基に比較し、歩行者天国が周辺地域と共存していくための条件を導き出すことを目的とする。

\* キーワード:交通制御・歩行者天国

\*\* 学生員、早稲田大学大学院理工学研究科建設工学専

\*\*\*フェロー会員、工博、早稲田大学理工学部土木工学科教

(東京都新宿区大久保 3-4-1 51-15-07

te 03-5286-3408 fax :03-5272-9723)

### 2. アンケート調査概要

対象地域は商店・利用者(ヒヤリング調査)が新宿・銀座・表参道の3地域で、住民(郵送回収)は表参道周辺居住者のみを対象とした。アンケート調査概要(サンプル数)は表-1の通りである。質問事項は住民には①個人属性に関する質問②歩行者天国実施に伴う不満事項に関する質問③歩行者天国廃止後の変化に関する質問。商店・利用者には①個人属性に関する質問②歩行者天国の印象に関する質問③歩行者天国廃止後の変化に関する質問(表参道のみ)である。

調査日はいずれも1998年11月~12月に行われたものである。

表-1 アンケート概要(サンプル数)

対象	新宿	銀座	表参道
利用者	36	38	30
商店	22	27	17
住民	—	—	148(回収率31%)

### 3. 歩行者天国に対する住民の意識

#### (1) 歩行者天国の総合評価

全体としては半数の住民が反対と回答し、住民の大多数が歩行者天国に反対しているわけではないことが分かった。自動車の有無別で見ると、保有住民のうち歩行者天国に反対が60%、非保有住民のうち賛成が54%と、自動車の保有によって賛成・反対の割合がほぼ逆転している。これより自動車に関連する項目が歩行者天国の廃止原因として考えられる。

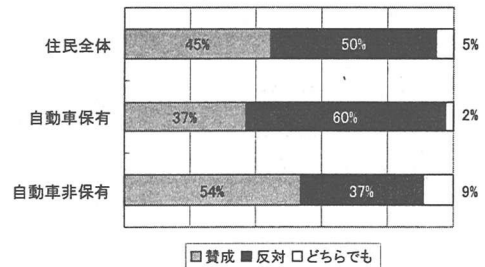


図-1 歩行者天国の総合評価

(2) 歩行者天国実施に伴う住民の不满について

図-2 に賛成・反対別，自動車の有無別に不満と感じている住民の割合を示す。

住民全体，賛成・反対，自動車有無すべて，「街が汚くなる」「幹線道路の違法駐車」「家周辺が汚くなる」「交通渋滞がひどくなる」「家周辺に駐車されること」の5項目が特に多くの住民が不満と感じている。

廃止の原因の1つとされている大道芸についてであるが，不満と感じている割合はそれほど高くなく，大道芸のある街の雰囲気がいいと考えている住民もいるということが分かった。

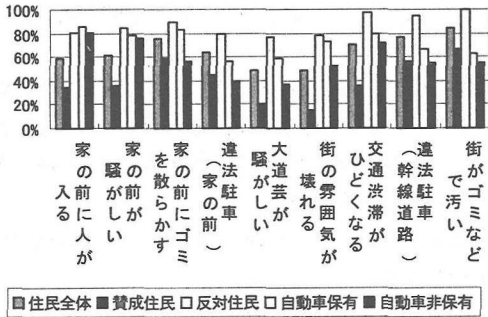


図-2. 不満と感じている住民の割合

(3) 独立係数

(2)の項目の不満度が歩行者天国の総合評価にどれだけ影響があるかを調べるために(2)の各項目と賛成・反対（総合評価）をクロス集計して個々の相関係数を求め，これにより歩行者天国の廃止原因を明らかにしていく。独立係数とは、「カテゴリ/カテゴリ」クロス集計により算出した相関係数のことを言う。各項目の独立係数とアンケートにより不満と答えた住民の割合を不満率とし表-2に示す。

表-2 各項目と総合評価との独立係数

項目	独立係数	不満率
A: 街の雰囲気が悪くなる	0.4375	48.649%
B: 交通渋滞	0.4345	70.946%
C: 大道芸がうるさいこと	0.4038	49.324%
D: 家の前が騒がしいこと	0.3651	59.459%
E: 街が汚くなること	0.3648	83.784%
F: 幹線道路の違法駐車	0.3388	77.027%
G: 家の前に人が入ること	0.3297	59.459%
H: 家周辺がゴミできたなくなる	0.2521	75.676%
I: 家周辺に駐車されること	0.2494	63.514%

次に先ほどの不満率を縦軸に，独立係数を横軸にとり，9つの評価項目をプロットしたのが以下の図である。

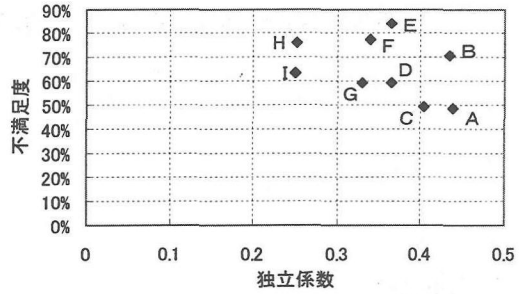


図-3 不満度グラフ

独立係数は一般に 0.25 以上であると「関連がある」とされている。このグラフにより，独立係数が 0.25 以上で不満率が高い (70%以上)「交通渋滞がひどくなる」「街が汚くなる」「幹線道路の違法駐車」「家周辺がゴミで汚くなる」の4項目が住民が歩行者天国に反対する原因であるといえる。

(4) 歩行者天国廃止後の変化

歩行者天国廃止後の変化についてまとめる。それぞれの項目に関して減少したと回答した住民の割合を住民全体，賛成・反対住民，自動車有無に分けて図-4に示す。

ここで減少したと感じる住民の割合が高い「渋滞について」「家の前のゴミについて」「街のゴミについて」の3項目が歩行者天国の影響が大きいといえる。

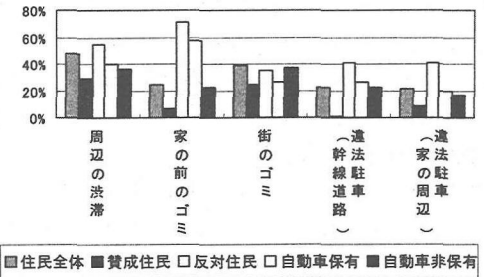


図-4 変化したと感じた住民の割合

(5) 歩行者天国の反対理由

多くの住民が回答した反対理由は「自動車に関すること」「ごみに関すること」であった。ここで新たに少数意見であるが「住宅地に排泄されて不潔」という回答が見られ，ゴミ箱の他にトイレ不足など設備的な問題があることが分かった。

それに加えて「とにかく利用者のマナーが悪い」との指摘が多く見られた。

(6) 歩行者天国廃止原因についての考察

以上のことより歩行者天国の廃止原因（問題点）は概ね次の要因にまとめることが出来る。

- ①渋滞や周辺道路、家の前の違法駐車によって休日の自動車利用が不便になること。
- ②街や住宅地がゴミや排泄物によって汚くなること
- ③利用者のマナーの悪さ。

4. 歩行者天国に対する商店の意識

(1) 歩行者天国実施時について

多くの商店が歩行者天国に賛成している。商店の賛成・反対の判断材料はほとんどが売上げであり、図-6より表参道、新宿では実施日に売上げが減る商店が約20%見られる。これより表参道、新宿の歩行者天国に問題点があると考えられる。以降では、それらの問題点を明らかにしていく。

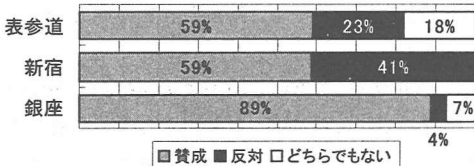


図-5 歩行者天国に賛成・反対

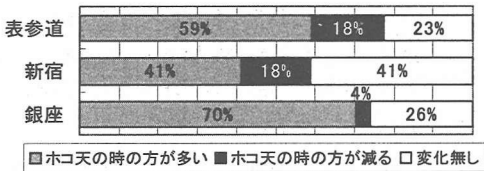


図-6 売上げ、客の入りに変化

(2) 歩行者天国のデメリット

それぞれの地域のデメリットから問題点を見ていく。表参道ではゴミが多くなること、新宿では大道芸、そして歩行者天国を実施しているにもかかわらず人の流れが悪くなるのが問題点である。しかし、銀座では「デメリットなし」と答える商店が他と比較して多く、問題点が少ないと言える。

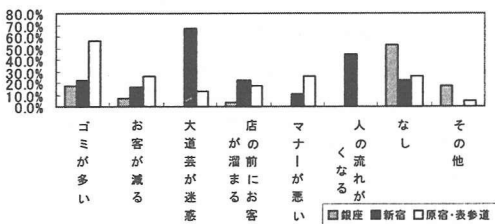


図-7 歩行者天国のデメリット

(3) 歩行者天国の影響について

歩行者天国の廃止後の変化について図-10に示す。廃止後の変化などから歩行者天国実施によって強く影響を受けるのは以下の2つと言える。

- ①歩行者天国実施は人を街に集め、売上げを増やす。
- ②歩行者天国実施時には普段よりゴミが多くなる。

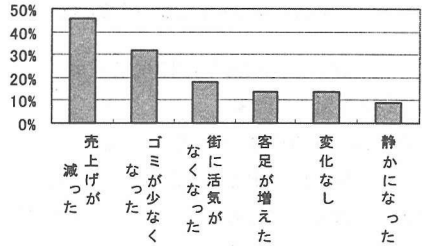


図-8 歩行者天国の廃止後の変化

(4) 歩行者天国の問題点

以上のことよりそれぞれの地域での歩行者天国の問題点を下にまとめる。

<銀座>

今回対象にした歩行者天国の中でもっとも実施規模が大きく、商店街の歩行者天国維持への意識が強いと思われる。商店街の協力のおかげで街もきれいに維持されており、歩行者天国のモデル地域と言えよう。

<新宿>

新宿は他の2地域と比較して道幅が狭く、それに加えて大道芸による人だかりにより、人の流れ、特に店の前の流れが悪くなってしまうことが問題点である。ゴミが多いことも問題点の1つである。

<表参道>

表参道に関しては住民のアンケートで明らかになったように、ゴミが一番の問題である。商店の意識も銀座と比較して他の店任せの感が見られる。

5. 歩行者天国に対する利用者の意識

(1) 利用者の意識について

利用者は歩行者天国に賛成の人がほとんどである。このなかにも、歩行者天国に観光できている回答者がいたことより、歩行者天国は人を集める力があると言える。以降利用者が歩行者天国にどのようなものを求め、かつ歩行者天国の問題点に関してどのように感じているのかを明らかにしていく。

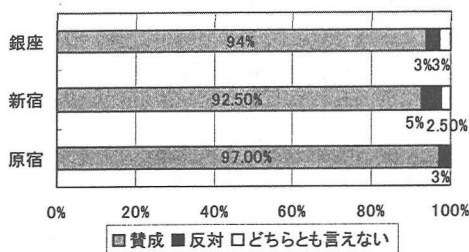


図-9 歩行者天国に賛成・反対

## (2) 歩行者天国の印象

利用者は「歩きやすい」「信号がない」「車道を歩ける」などの歩行に関する印象が強い。それに加え、「路上で休憩」なども多くなっている。従って利用者は歩行者天国に安全かつ自由な歩行や、公園のような空間を求めている。

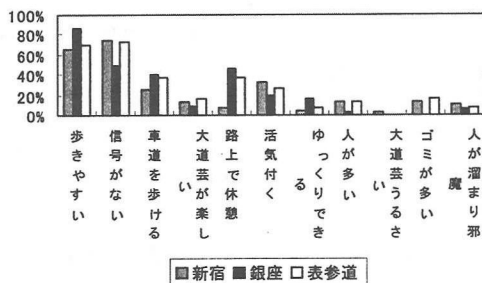


図-10 歩行者天国の印象について

## (3) 利用者の意識のまとめ

以上より利用者は安全かつ自由な歩行のために歩行者天国を必要としている。利用者の意見から、ゴミ箱(特に灰皿)が不足しているという問題もあるが、しかしゴミの問題はゴミ箱の数だけでなくゴミを捨てる側の意識が重要であるので単にゴミ箱の数を増やすだけでは解決しない。ここでやはり商店などが利用者がゴミを散らかさないように呼びかけをすることが重要となる。

## 6. 結論

### 6.1. 歩行者天国を運営していくための条件

歩行者天国運営上一番重要なのは商店の協力である。銀座を見てわかるように、利用者にゴミを出さないように呼びかけたり、出たら掃除をするといった努力があれば街をきれいに維持していくことが出来る。さらに行政機関の協力が得られれば利用者のマナーについても変化していくのではないかと考えられる。

### 6.2. 住民と共存していくための条件と今後のあり方

歩行者天国を実施するには周辺が住宅地であると問題が多くなる。基本的に住民は人が集まりすぎるのを嫌がるため、歩行者天国実施するにあたって周辺地域が住宅地である地域は避けるのが望ましい。そのような状況で実施する場合には住民側からの不満事項を少しでも解消し、協力を求めていくことが最も重要となる。解消すべき不満事項としてはゴミに関することと自動車に関することである。ゴミに関することは先述した通り商店の協力によって街をきれいに維持していくことにより少しは解消され、自動車に関しては表参道の様に大きな道路一本だけ規制するのではなく、地域全体を面的に車両通行禁止にすることを提案する。(自由が丘を参考。)このことによつて家の前に駐車する車がなくなり、大きな不満事項であった車の使用の不便さについて少しは解消されるのではないかと考えられる。

### 6.3. 商業地域と共存していくための条件と今後のあり方

商業地域では人がたくさん集まることを望んでいるので、商業地域で歩行者天国を実施することは望ましい。そこでの問題点は、人の流れが悪くなってしまふことと、ゴミ問題である。現在の歩行者天国は、車道では大道芸が行われその見物で人だかりを作っている。そのため歩行者が歩く場所は歩道しかなくなり、普段と変わらず大変混雑してしまっている。これを解決するには、車道と歩道の一体化する必要がある。歩行者天国実施道路をひとつの公園のような空間にし、車道も歩ける状態にすることも一つの考えであろう。

ゴミ問題についてはゴミ箱が不足しているのも現実であるが、先に述べたように、捨てる側の意識が問題であるので、商店側の呼びかけがやはり重要となる。

## 7. 参考文献

- 1) 第44回, 48回東京都統計年鑑 東京都
- 2) 平成9年世論調査年鑑 内閣総理大臣官房広報室
- 3) 歩行者天国における歩行者の通行と滞留に関する研究  
: 伊藤 友博 1996年早稲田大学卒業論文
- 4) 「散策空間の整備に関する空間評価要素の考察」  
: 和田 章仁 土木計画学研究・講演集19(2)1996
- 5) 「街づくりと歩行空間」: 今野 博 鹿島出版
- 6) 魅力あるまちづくり・まちづくり 土木学会 1989